

腸チフス屍の諸臓器に於ける光輝細胞の消長に就て

第2篇 脾臓の光輝細胞

岡山醫科大學病理學教室（指導 濱崎教授）

専攻生 岸 本 正 義

（昭和24年5月18日受稿）

正常な脾臓には光輝細胞は認められない事になつて居る⁵⁾。唯例外的に脾柱血管が脾柱に出入する部位に1~2の光輝細胞を見る事がある（濱崎、小西）⁵⁾。脾柱には多數の滑平筋纖維が存するが太い結締組織の緻密な組織内に埋没せられ、光輝細胞を發生するには都合の悪い状態にある。その状態は動脈中膜によく似て居る。斯様な部位の滑平筋纖維から病的に光輝細胞が形成される事があるか否かは重大な問題であつて光輝細胞の發生學上興味ある課題である。

實驗成績

第1例 米田（發病後6日目）（+）

定型的の傳染急性脾炎であつて少數のチフス結節を認める。少數の脾柱内殊にやや邊緣部に近く少數の紡錘形又は橢圓形の光輝細胞を認める。大きさ15乃至20 μ で境は甚だ鋭利で特異な事は周囲の組織との間に明瞭な間隙を認める事であつて、他の遊走細胞ではこんな事はない。原形質は嗜酸性及び屈光性が共に強く核は淡染して小圓形又は橢圓形である。又一部の脾柱は組織が鬆粗になりその部に組織球、單核球の浸潤を認めたものがある。

斯様な部位にも光輝細胞が極く少數に出現するが腫大する爲に辨別が困難である。

第2例 島倉（發病後9日目）（+）

定型的な傳染性急性脾炎が見られ少數の壞死に傾いたチフス結節を認める。脾柱の周縁に接して「かまぼこ」形の光輝細胞の少數を認められ殊に脾柱が分岐状に間隙を形成した部に稍腫大した光輝細胞數箇細工状に群在するのが認められた。

第3例 西村（發病後12日目）（+）

脾赤髓は無數の巨大喰細胞で充満されて居る。脾柱の周縁並びに脾柱中の間隙に中等數の光輝細胞を認める、脾柱内にあるものは境界鋭利な橢圓形の間隙内に存し光輝細胞がまだ小さくて紡錘形をなすものでは空隙の一侧に付着し、或は細胞突起が空隙の一極又は兩極に達し脾柱組織中に侵入して居るものがある。突起の細長いものは尚滑平筋纖維の性状を保つて居る。之等は筋纖維から光輝細胞への移行型である。被膜には通常光輝細胞を認めないが脾柱分岐部には時々之を認める。

第4例 山口（發病後13日目）（+）

鬱血は強いがチフス性變化は比較的輕度である。光輝細胞は脾柱の内外に少數に認められる。

第5例 深田（發病後14日目）（+）

傳染性急性脾炎が見られ脾柱の内外に光輝細胞稍多數に増殖する。殊に脾柱周縁部に沿つて増殖する爲に弱擴大鏡檢で赤染する特異な層を現はす事あり。又太い脾柱動脈の外膜と脾柱組織の境の部に同様の増殖を起し明瞭な狭い環狀の赤染帯を現はす事がある。斯様な部では大小の光輝細胞が混在するが、大なるものは多角形に近い形となつて其の邊縁が互に相接して居る。

第6例 丸尾（發病後17日目）（+）

チフス結節が可成り多數に見られるが一般的に變化は前諸例に比して輕い。併し脾柱内には單核球、淋巴球の浸潤可成り強く、その爲に光輝細胞は發生して居る様であるが鑑別が困難となつて居る。

第7例 山本（發病後18日目）（+）

總ての性状が前例に似て居るが脾實質の變

化は前例より軽度である。

第8例 籾山 (発病後18日目)(+)

實質のチフス性變化は中等度に認められ、脾柱の光輝細胞は比較的少數である。

第9例 漆間 (発病後18日目)(+)

實質の所見は前例に類似する。脾柱内に光輝細胞が比較的多い。

第10例 小檜山 (発病後19日目)(+)

チフス性變化の他に大きい貧血性梗塞がある。脾柱内には少數の光輝細胞を認めるのみ。

第11例 渡邊 (発病後19日目)(+)

實質のチフス性變化は可成り著しいが光輝細胞の發生は軽度である。

第12例 森木 (発病後19日目)(+)

脾被膜の可成り廣い部にわたつて炎症が起り、單核球、淋巴球、等の浸潤が可成り強く光輝細胞も可成り多數に見られるが一般に脾柱内に於けるより特徴が少い。脾柱自身には光輝細胞は餘り多くないが直接核分裂を起して居るものを見た。

第13例 鈴木 (発病後19日目)(+)

實質にチフス性變化中等度であり脾柱内に可成りの光輝細胞を認める。

第14例 春本 (発病後20日目)(+)

實質のチフス性變化は中等度に認められる。脾柱内には稍多數の光輝細胞増殖し、2~3の比較的細い脾柱は腫大粗糲化して光輝細胞で充満されもはや滑平筋纖維を認め得ない。

第15例 鷹森 (発病後21日目)(+)

實質の變化は可成り強く所々に小さい壞死層を認める。脾柱の内外に可成り多數の光輝細胞が出現して居る。

第16例 河野 (発病後21日目)

死後變化強く所見は不明瞭である。

第17例 稻毛 (発病後22日目)(+)

實質のチフス性變化は中等度に認められる。脾柱内には光輝細胞が少數に發生して居る。

第18例 山田 (発病後25日目)(+)

鬱血以外は實質の變化は軽度である、光輝

細胞は脾柱の邊縁部に少數發生して居る。

第19例 村上 (発病後27日目)(+)

鬱血は可成り強く又網狀織細胞の増殖も強い。脾性の内外には光輝細胞可成り多數に認められる。稀に脾柱全體粗糲化して多數の光輝細胞、組織球、單核球で滿されたものがある。興味ある事は脾性動脈の中膜の滑平筋纖維から少數の光輝細胞が發生して居る事でその胞體は長橢圓形、境は甚だ明瞭で光輝強くエオジンに濃染する。核は小圓形で濃染する。中膜内には光輝細胞以外全く遊走細胞は認めない。其他脾被膜にも單核球、淋巴球の浸潤を起しその附近には少數の光輝細胞を認める。

第20例 福井 (発病後30日目)(+)

鬱血以外にチフス性變化は餘り著しくない。脾柱の内外に光輝細胞を中等度に認める。

第21例 三浦 (発病後35日目)(+)

概ね前例に類する所見を認める。

第22例 鈴木 (発病後日數不詳)(+)

實質のチフス性變化は中等度に認められる。光輝細胞の數は必ずしも多くはないが、脾柱内外に散在性に明瞭な空隙間に存する嗜酸性の強い美麗な光輝細胞を認める。

第23例 長谷川 (発病後日數不詳)(+)

總て所見は餘り著しくない。

第24例 古川 (発病後日數不詳)(+)

實質のチフス性變化は軽度である。光輝細胞は脾柱の内外に少數に認められる。

第25例 冷水 (発病後日數不詳)(+)

實質のチフス性變化は軽度である。光輝細胞も脾柱間に少數に認めるのみ。

第26例 大野 (発病後37日目)(+)

鬱血強く一部出血性の多數の巨大喰細胞を認める。脾柱内に可成り多數の光輝細胞を認める。その一部のは滑平筋纖維から「おたまじやくし」狀に短くなり周圍組織からは狭い間隙で境せられ、その頸部に核が位置し、その尾は筋纖維に相當するが此の部は弛緩して被狀の走行をとり甚だ萎縮性である。又他の部では上記の様な筋纖維で「おたまじ

やくし」の頸部の所で断裂して遊離した光輝細胞が生ずるのを認める。

第27例 樋木（発病後30日目）（十）

鬱血は可成り強いがその他實質の變化は餘り強くない。脾柱内外に中等数の光輝細胞を認める。ある部では脾柱の一端に數箇の光輝細胞が群在して脾柱深部のものは細長くて未だ筋纖維の性状が残つて居るが實質に近づくに従つて細胞周囲の間隙が廣くなり胞體も橢圓形又は強い偽足狀の突起を持つた光輝細胞に移行して居るのを認める。

總括及び結論

脾臓では健康時には光輝細胞を全く認めない。又日常吾々が取扱ふ他の疾患でも殆んど之を認めない。『但、骨髓性白血病の1例に於て認められた事がある。（後報）』従つて前記した脾柱及び脾被膜で検出された光輝細胞は明かに腸チフスに罹つた事が直接の發生原因であると斷言出来る。光輝細胞の發生過程を追及すると先づ一定の脾柱滑平筋纖維が周圍組織との間に狭い間隙が出来て遊離を起す。遊離は兩端同時に起る事は少く先づ一端が遊離する爲にその側は短縮して太くなり筋纖維は「おたまじやくし」形になる。その頭部に相當して核が位置する。次で他の一端が遊離して定型的の光輝細胞となるのであるがその場合萎縮した筋纖維は断裂される事が多

い。出来上つた光輝細胞は更に核の直接分裂によつて増殖する事も出来る。チフス罹患の際最も早く動員されるのは脾柱邊緣部の滑平筋纖維であつて、光輝細胞の増殖の著しい場合には之等が集つて丘狀をなして脾柱の周圍に盛り上つて見える事がある。又脾柱動脈の外膜と脾柱組織の境にも同様の所見が現はれる。脾柱の内部では光輝細胞は餘り多數に發生しないが、此の部では他種遊走細胞を全く交へずに出現し得るから光輝細胞の研究に甚だ快適である。更に脾柱動脈の中膜に於ては前記所見が甚だ著しい。勿論脾柱内に炎症性の浸潤があるが光輝細胞の發生は最も盛んであつてひどい場合には滑平筋纖維の大多數が動員されて脾柱組織は崩滅に頻し多數の光輝細胞が發生を見る事がある。而しこんな場合には光輝細胞は腫大して非定型的となつて鑑別が困難である。注意すべき事は此の様な場合でも脾の光輝細胞は腹壁での様に定型的のチフス細胞に變るものを認め得ない事である。脾被膜には炎症性の浸潤を伴はずして光輝細胞の發生を見る事は甚だ稀である。尙光輝細胞は脾實質内に形成されるチフス結節の構成には關與しない。

擧筆するに當り親しく御指導御校閲を賜つた恩師濱崎教授に深甚の謝意を表する。

主要文献

（第4篇参照のこと）

腸チフス屍の諸臓器に於ける光輝細胞の消長に就て 第3篇 肝臓及び脾臓の光輝細胞

岡山醫科大學病理學教室（指導 濱崎教授）

専攻生 岸 本 正 義

（昭和24年5月18日受稿）

第1章 肝臓の光輝細胞

肝臓は光輝細胞に甚だ縁の薄い臓器であつて正常味には肝門部結締織中に後腹膜下組織

に屬すると考へられる光輝細胞が認められるのみである。⁵⁾チフス屍肝臓に於ける光輝細胞検出成績は次の通りである。